検索１回で政治に届く町　美郷から探しやすさを設計する

美郷町　　松木　麗音

皆さんは、政治の情報を探すとき、何回クリックしますか？

私は美郷町企画情報課で、商工業振興や事業承継支援に携わってきました。現場で学んだことは、情報は１つに集約されて、はじめて行動に変わるということです。

美郷町では、事業承継に特化した「みさとバトン」を立ち上げ、移住定住と事業承継の情報を結びつけました。美郷で住んで働く選択肢として事業承継があることを一目で分かるようにした結果、令和３年に３件の承継が成立しました。

外から来る人にも町内の事業者にも、見つけやすさが背中を押します。この経験は、政治の情報発信にもそのまま当てはまると考えています。

では、今の政治情報は見つけやすいでしょうか？

多くの自治体でPDF中心の発信がされ、スマホでは要点が拾いにくい状態です。どこに何があるのかがわからず「次の一手」が隣にないので、せっかく関心を示しても、行動に移る前に離れてしまいます。

つまり、無関心だから離れるのではなく、欲しい情報に届く前に離脱しているのです。

前大会の発表でも、若者は候補者情報を集める行為そのものに負荷を感じていると指摘されていました。ならば課題は明確です。探しやすい政治に設計を変えれば良いのです。

私は行政の実務から、次の３点を提案します。

第１に、政治と選挙の案内を１つに集約することです。

ＨＰに入口を作り、議会情報、選挙公報、投票情報、請願・陳情・傍聴の案内を、迷わずたどれる並びで置きます。

PDFでの公開は残しつつ、その手前に短い要約を置き、要点を先に伝えます。

見出しは専門用語を避け、「空き店舗」「通学路の安全」などの暮らしの言葉で表現します。

第２に、議会情報を「読み切れる形」に直すことです。

現状、質問と回答を交互に羅列していますが、全て読むには時間がかかり、専門用語が出てくると理解が難しくなります。

改善案として、各一般質問の冒頭に３行程度の要約を固定し、主題、現状、次の一手を明

確にします。本文は何が議論され、暮らしに何がどう影響するのかを順番に示します。事業名の列挙で終わらせず、説明ページや申請窓口への直通リンクを見出しの近くに配置します。

読み手が求めているのは全部を理解することではありません。暮らしに影響する必要な情報を、速く、確実に受け取ることです。

第 3 に、比較と体験を前提にすることです。

選挙の時期には、選挙公報を必ず正規の掲載先に誘導し、誤解を防ぎます。

併せて、政策を比較できる診断ツールの使い方を案内し、数分で自分の関心と各候補の違いを確かめる体験を用意します。

誰かに言われたからではなく、自分で確かめたという実感が参加の動機になるからです。

これらは特定の政党や候補者を支持するものではありません。

行政の中立性を守りながら、政治への到達コストを徹底的に下げるための実務の提案です。

私は現場で見てきました。情報を 1 つにまとめ、整理すれば、人は自然と次の行動に進みます。政治も同じです。

入口が整えば若者は来ます。無関心が問題なのではありません。無関心に見えてしまう設計が問題なのです。

検索 1 回で政治に届く。

その仕組みを整えることが、若者の一票を生み出す第一歩だと、私は考えます。

ご清聴ありがとうございました。